

みよし

発行所

太平山頂上鎮座

太平山三吉神社総本宮

宮司 田村 泰 教

秋田市広面字赤沼3の2

電話 (018) 834 3443

F A X (018) 835 6864

<http://www.miyoshi.or.jp>

開山祭ご案内号

六月四日、有志の方々のお力添えを戴き、快晴のもと今年も無事へりによる荷上げが行なわれ、七月十七日山開きを待つばかりとなった。霊峰に祀られる当社にとって開山祭は最も重い儀式の一つ。神人奉仕のために時間を割きわざわざ遠方から駆けつけて下さる方も多く、その篤い信仰と献身的なご奉仕に心から感謝と敬服の意を表したい。遠く関東以西から山に憩いや癒しを求めて登山される団体が目立つ昨今、およそ信仰とは縁遠い方々が「ブナの巨木や美しい天然杉…豊かな自然が残る素晴らしい山ですね」「本当の頂に立派な神社が祀られているんですね」と口を揃えて賞賛と驚きの言葉を残されていく。また男鹿半島の夕陽や神々しいご来光に感動して登山を恒例行事とした青年グループもある。時代の風潮に左右されず、言わば当社の御神体である太平山を永く守り抜いていく覚悟も新たに、今年も奥宮奉仕をさせて頂く所存である。

たくさんの方々のご協力でご営まれる今夏も、大神さまの御守護のもと大きな事故災いなく、登拝が意義深いものとなりますことを心より祈念申し上げます。

行事日程は六頁にご載じます。

責任役員随想⑱

御神霊よ 永遠なれ

責任役員 利部 秀夫

今を去ること百五十年、幕末維新の動乱のさなか、秋田藩では勤王が、佐幕かで藩論を二分して激論が昂じていました。その中で藩主佐竹氏の、その祖は源氏の嫡流でした。その誇りを念頭に藩論が統一され、勤皇、即ち天皇軍に組する大義名分を確立して立ち上がりました。その結果、北から南から攻撃される羽目に陥り、大混乱となり、多くの犠牲を強いられ、中でも幕府親藩の庄内軍は西から、我が秋田に怒涛となつて押し寄せてきました。四面を敵にした秋田では総力を挙げて、防衛に躍起になりましたが、次第に各地で戦局の利を失い、仙北の境付

近まで攻め込まれ、もはや秋田城を中心に市街戦は避けられなれど誰も必死の防衛手段に夢中でした。然も、秋田城は防壁など防御施設に弱点が多くまさに風前の灯となり、守備隊はもとより全市民は危急存亡を悟り、誰もが乱軍を覚悟して夜を徹して戦闘準備に懸命でした。この時になって、最前線では全くの奇跡が起こりました。三吉の大神が身の丈三メートル余りの偉丈夫となつて、敵前に立ち塞がり、両脇に大筒を抱え、賊徒目掛けて打ち捲った。賊は蜘蛛の子を散らすように四散して秋田軍は大勝利しました。このように、三吉さんとは、

秋田の人々の脳裏に強烈に焼きついている守護神なのです。そこで人々は遙に遠い昔から、自然がなせる無常な激震や、すべての生命の源でもありそれを育む苔の水、空気による思いもよらない狂乱した渦のどん底に身を沈めることも少なくありません。その時誰もが、ひたすら救いの神に縋り頼る心それが、三吉の御神霊だとすれば、門前市をなす参詣者溢れて、やがて梵天祭でピークに達するのです。

三吉神社では三吉節、別名梵天唄保存会があります。この唄は秋田民謡の数多い中でも屈指の唄で、民謡家の進藤義声師を中心に励んでいます。三吉節は、偉大な三吉の大神を称える歌であります。ですから、めつぼう声量が求められるのです。従つて、境内の要所にマイクや、スピーカーを設えて、多くの会員からも外気にもめげないで大神様に届けと歌い続けて本人はもとより、参拝者も一年に渡つて、神様から御利益を与えられますように、しかも、勇壮に優雅さも加えられますように宮司さんが特に配慮くだされば、市民の幸せが増す事と思われれます。

三吉さんの秋田に溶け込んでいる庶民的な一面に触れます。暮れも押し詰まった、ある日の夕方、居酒屋の暖簾をくぐつて、筋骨逞しい見慣れない大男がぬーっと入つて来て、菅笠大の盃を差し出して主人に酒を求めた。主人は適宜に注いだら、もつと多くと促されて、注いだ酒は三升になった。そして片手で軽々と口に運んで一気のためらわず飲み干して、どこもななく立ち去りました。同席した人々は異口同音にあれは三吉の神様の化身だとささやき合いましたが、誰も疑いを挟みませんでした。

神武館だより

門下生募集中!!



新年度に九名を中学校に送り出した神武館は、新しい仲間も加わり日々熱心に稽古に打ち込んでおります。今年度の成績は四月十七日
市民剣道大会で三位
四月十八日
飛鷹旗争奪少年剣道大会では五連覇ならず、惜しくも準優勝
五月十六日
秋田県少年剣道錬成大会では優良賞を戴いて、七月に日本武道館で行われる、全国大会のキップを手に入れました。
現在は広面小、九名、桜小、三名、仁井田小、三名、中通小、二名、寺内小、山谷小、御所野小、旭川小、秋大附小、横手南小、大曲花館小がそれぞれ一名づつでかなり広範囲に門下生を持つようになりました。
礼節を重んじ、自己表現のできる明るく元気な子供達を育成する事を目標にしております。
現在門下生を募集しております。是非一度見学において下さい。



指導者 佐藤五郎先生 七段
和田満春先生 七段
菅野正直先生 六段
根田芳弘先生 六段
稽古日 毎週火、水、金、土
午後四時半から七時迄
月謝 四 円と
対象 父母会費一 円
幼稚園から大人まで
尚土曜日は六時から大人や中高生の方々と合同稽古もござい
ます。

みよしスケッチ



奥宮荷上げ(六月四日)
へりによる約三七の燃料・物資の荷上げが多くの方々のご助勢により無事終了しました。



第三十回清掃登山(五月二十五日)
水野鉄也氏を中心に五十名の方々が清掃奉仕を行いました。



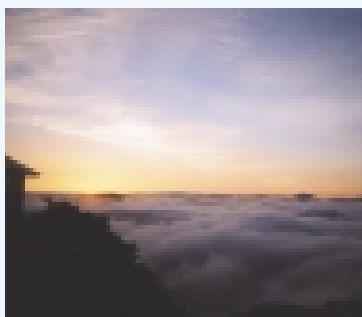
J R 秋田支社秋田車両センター

奥宮参拝(六月十二日)

みよしスケッチ

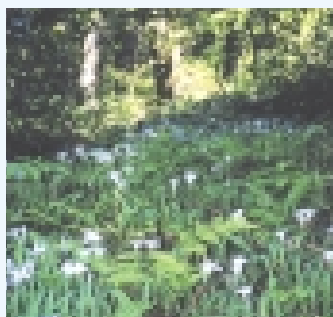
太平山御来光

雲海の上に顔を出す神々しい朝日。



ヒメシヤガ満開

六月初旬アヤマ坂のヒメシヤガ(別名ダケアヤマ)が満開を迎えました。



春季例祭(五月七日・八日)

社頭の八重桜が満開のもと、多くの参列者で賑わいました。



宵宮祭



当日祭

札幌三吉神社大祭(五月十五日)

恒例の大祭に権祢宜長岡孝康・三吉節保存会五名が参列。



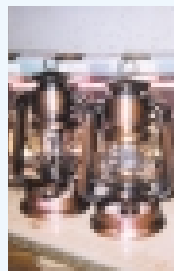
第三十二回講社旅行(五月十八日)

快晴のもと能代市人幡神社参拝を中心に楽しく催されました。



奉納者(芳名)

一、奥宮用フンタン 八個
能代市 加賀谷真大巨殿



一、奥宮用冷却器

秋田市(株)菅生商店
菅生入工子殿



追悼

札幌市太平山三吉神社宮司

丹羽透涯氏

(1月9日ご逝去 享年81歳)

宣布司 斎藤冬野氏

(5月14日ご逝去 享年82歳)

永年賜りましたご崇敬とお力添えに深く感謝申し上げますと共に心よりご冥福をお祈り申し上げます。

夏越の大祓式のご案内

当神社では恒例により六月三十日(水)午後三時より「夏越の大祓式」を斎行致します。

この神事は、日常の生活において知らず知らずの内に犯した罪や穢れを、形代(かたしろ)に託し、茅の輪をくぐることで祓い清め、残る月日を心身ともに清々しく過ごすことを祈るものです。

是非、ご参列の上、「ご家族皆様のご健康・ご繁栄を祈念されますよう」ご案内申し上げます。

《形代でのお被いのしかた》

一、まず、形代にそれぞれ「ご家族の氏名・生年月日をお書き下さい。

二、形代で自体を撫で清めます。特に病気やケガなどで具合の悪い所を入念にお被い下さい。

三、次に形代を両手で持ち、大きく三度息を吹きかけて下さい。

形代は神社にご用意しております。必要数を「ご連絡下さい。

(係 佐々木)

以上を行った後、ご家族の分をまとめて当日「ご持参下さい。

尚、「都合のつかない方は、随時「ご持参又は「郵送下されば三十日当日神事」ご奉仕の上、「ご神符をお送り致します。

以上

芽の輪神事

六月三十日(水)

午後三時斎行

水無月の

なごしの祓する人は

千歳の命延ぶといふなり

第41回「太平山に登ろう会」のご案内

秋田市のシンボルであり、古くから霊峰として崇敬を集める《太平山》に登ることを目的とします。当会は山岳会員と神社職員が同行案内しますので、山登りの経験のない方でも安心してご参加頂けます。是非、お仲間同士お誘い合わせの上ご参加下さい。(おひとりのご参加も大歓迎です)

記

- ・日 時 平成16年7月25日 ~26日 (1泊2日)
- ・参加費 9,500円(宿泊・交通費、保険料、初穂料、食事代・記念写真代等一切を含みます)
- ・申込み 7月18日 までに電話(係:菅野)または来社の上お申込下さい
- ・持参品 着替え、雨具、懐中電灯、飲料(ミニペットボトルが便利)、その他各自必需品。
- ・服装 登山や山の天候に適した服装。(手荷物は持たないように)
- ・集合 午前11時 里宮(昼食を済ませてからお越し下さい。)
- ・登山路 旭又(仁別)コース往復
- ・日 程 (時刻はあくまで目安の時間となります)

《7/25》

里宮 11:50集合 安全祈願後出発 旭又キャンプ場(12:30) 御滝神社 御手洗(みたらし・冷たい湧水・ブナ林) 太平山山頂(16:30頃) 祈願祭の後夕食直会 【山頂山小屋 泊】

《7/26》

(朝拝行事・朝食) 御手洗 御滝神社 旭又 里宮 11:30 昼食後解散

ご来光(朝日)を拝みます

山頂からの絶景のパノラマや男鹿半島を臨む夕陽・満天の星空をお楽しみ下さい

平成十六年度開山祭のご案内

ご神体を奥宮へお遷しする重儀「開山祭」が左記により斎行されます。山頂までの神人奉仕、及び多数の方のご参列を賜われますようご案内申し上げます。

記

日時 平成十六年七月十七日(土) 午前10時
 於 里宮拝殿(直会はございません)

この祭儀は古式に則り、里宮での神事後、神人奉仕の方々によりご神体を太平山山頂奥宮にご遷御申し上げます。山頂到着後、奥宮にて奉告祭を斎行致します。

ご参列人数・神人奉仕者数・斎館宿泊者数について、七月十日までに係 佐々木まで御連絡下さい。

《神人奉仕をされる方々へ》

神人の方々には、以下の点を厳守の上、ご参加下さい。

行者服または白い服を身につけること。

身辺に不浄のないこと。(喪中など)

精進潔斎に努めること。(三日前より四足の肉や酒などを控える)

道中はご神体を先頭にして登拝のこと。(みだりに早く登拝しないこと)

奥宮での神事終了後、直会を行います。

神人と同行せず、別途登拝予定の方も、必ずご連絡下さい。

* 平成16年 下半期・行事予定 (8月以降) *

8月8日(日)	午前10時	講社祭	各地の太平山講中、三吉講中が参集します
9月17日(金)	午前10時	閉山祭	ご神体を奥宮より里宮へお遷しする重要な神事
10月1日(金)	午前11時	印章供養祭	感謝を込めて印鑑を供養するお祭
10月15日(金)	午前11時	人形感謝祭	愛着ある人形に感謝を込めてお焚き上げる神事 (人形は10月1日よりお預かり致します)
10月16日(土)	午後6時	秋季例大祭宵宮祭	一年の恵みに感謝する秋の例大祭
10月17日(日)	午前11時	秋季例大祭当日祭	多くの参詣者で賑わいます
11月中旬		大麻守札頒布式	翌年度お祀りするお札・お守りを裃い清める神事
11月23日(火)	午前10時	新嘗祭	五穀の収穫に感謝する祭典
12月13日(月)	午前10時	煤払い式	境内建物のすすを払う年末恒例行事
12月31日(金)	午後2時	師走の大祓式	清々しく新年を迎えられるように、一年の罪 けがれを裃い清める神事

毎月8日・17日は月次祭(午前10時)がございます。
 各祭典ともどなたでもご参列頂けます。お気軽にお問い合わせ下さい。